

平成31年度(令和元年度)

徳島県立川島中学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①「主体的に学び、活動する力を伸ばす授業の確立」
- ②「自ら課題を見つけ、解決していく学習の定着」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭 内多 聡
委員 多田巧(教頭), 尾嶋麻子(国語科主任・道徳担当), 三橋博之(社会科主任), 石田靖奈(数学担当), 安部恭美(理科担当), 岡田朋子(英語科主任), 林義真(保健体育科主任), 東出稔(教務主任)

校長

武田 伊織

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 授業態度はまじめで、与えられた課題に真剣に取り組むことができる。各教科において、基礎的・基本的な知識・技能の習得に一定の成果が見られる。	①学習活動を支える基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけている。 ②週末課題や定期考査時の提出物に計画的に取り組む、期限を守って確実に提出できる。	①全国調査・ステップアップテストで平均正答率が県平均以上 ②「宿題を提出できている」と答える生徒の割合が80%以上			
課題 学力差が非常に大きい。基礎的・基本的な知識・技能の習得が不十分で、宿題などの提出物がきちんと取り組めない生徒もいる。	①8:25には着席を完了させ、朝学習に集中して取り組ませる。 ②定期考査前の「質問タイム」と定期考査後の「補充学習」の内容を充実させる。	①やむをえない事情以外で遅刻する生徒の人数を昨年度より減らす ②「質問タイムや補充学習が役に立った」と答える生徒の割合が80%以上		評価	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 個人や班の考えをまとめて表現し、相手にわかりやすく伝える手段や方法を身につけてきている。	様々な学習を通して、自分の考えを明確にして書いたり話したりできるとともに、生徒相互が学び合い、他者と協働して課題を解決する力を身につけている。	「自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが以前よりできるようになった」と答える生徒の割合が80%以上			
課題 基礎的・基本的な知識・技能は習得しているが、それらをうまく活用できず、課題の解決につながっていない生徒がいる。	①主体的・対話的で深い学びの視点から、中高の相互参観授業や研究授業によって授業の改善に努める。 ②図書委員会の活動を活性化させて、読書活動の充実を図る。	①「小单元ごとに深い学びの場を1回以上設定できた」と答える教員の割合が80%以上 ②毎月の読書冊数の平均が各クラス3冊以上		評価	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 落ち着いた環境で、じっくりと学習に取り組むことができている。	①自主学習ノートを充実させたり、各種検定等を積極的に受験したりするなど、自ら意欲的に学ぶことができる。 ②自らの目標に向けて十分な学習時間を確保し、計画的に家庭学習に取り組むことができる。	①漢検・英検・数検の受検率が昨年度より上回る ②家庭学習時間の平均が各クラス2時間以上			
課題 まじめに学習に取り組んでいるが、実際は学習に対して受け身な生徒も多く、見通しをもって主体的に学習に取り組むことに課題がある。	①中高一貫校の特色を活かして、高校生や高校教員から学ぶ機会を積極的に計画・実施し、中高の交流を深める。 ②「至誠ノート」を活用して、学習の計画を立ててふりかえる習慣を身につけさせる。	①「高校生や高校教員から学ぶ機会は役に立った」と答える生徒の割合が80%以上 ②「以前より計画的に学習に取り組むようになった」と答える生徒の割合が80%以上		評価	次年度における改善事項

平成31年度 学力向上ロードマップ

